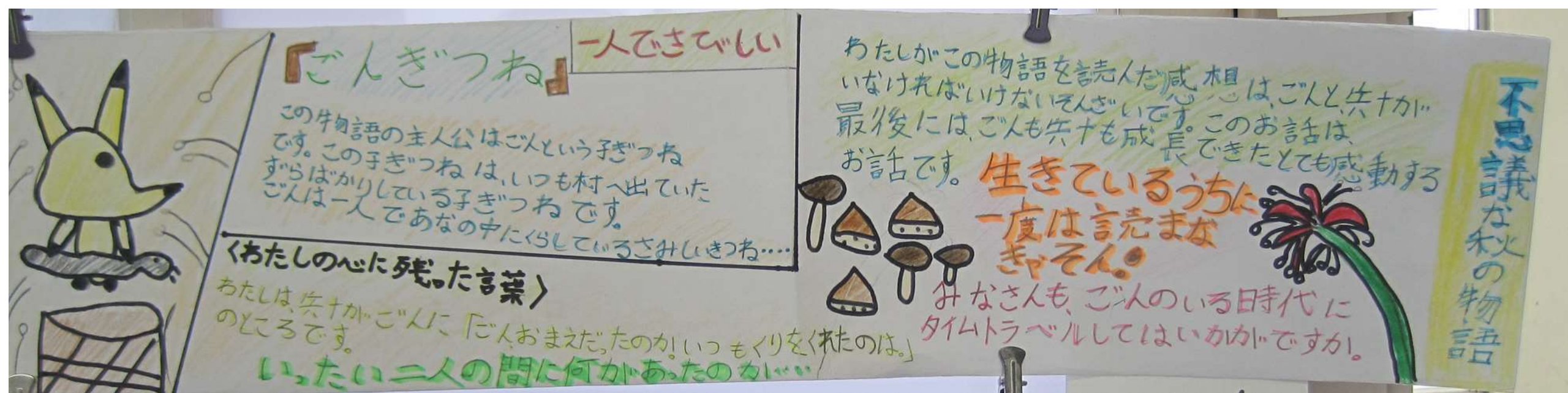
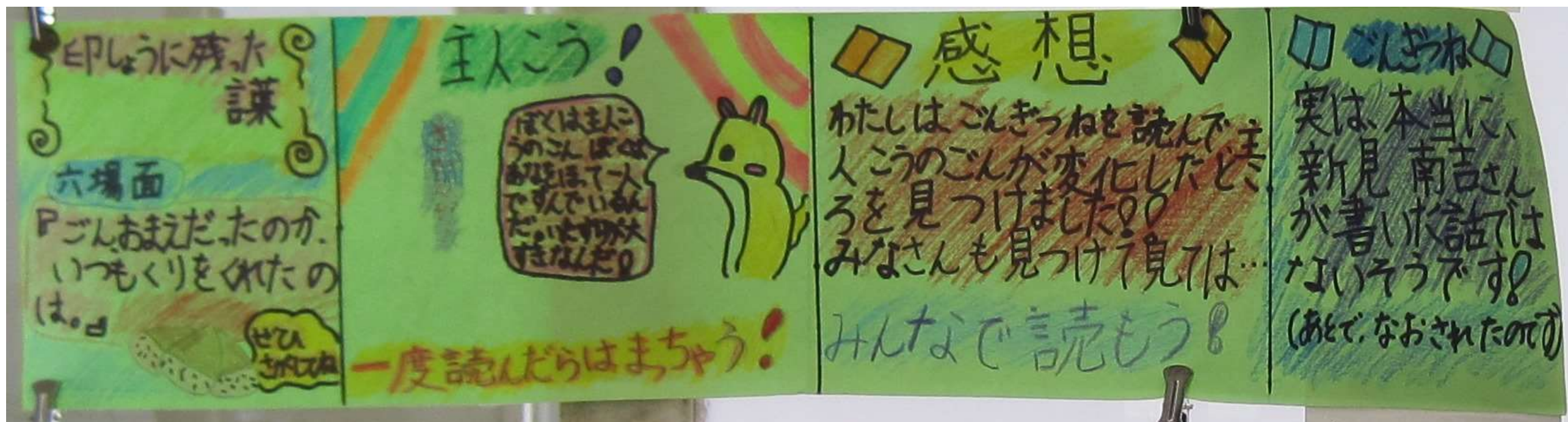




ごんぎっね



ごんはいたすら好きの、
子ぎっね。兵十へのつぐない
のためにくりや松だけを兵十の
家へ持って行きますが...

「ごん、おまえだったのか。いつもくりをく
れたのは」

兵十は、ごんのやさしさに気がつきます。

わたしは、この言葉が
心に残りました。



◎ごんぎっね◎

本当は、ごんぎっね
のものがたりは、
新美南吉さんが
かいた話では
ありません。
(おしさがきかえた)



くりを
もって
いく
ところ

感想

ごんはいたすらはかり
していました。ある日、
兵十のうなきをぬす
みました。その、つぐ
ないに、くりやまつたけ
を持って、行ってだけと兵
十にきづいてもらえな
かったけど、最後に気づい
てもらってよかったです。

ひとりぼ
っち



しゅんこう しょうかい

「ごんぎっね」の著者のしゅんこう
ごんと言う子ぎっねです。
いつも廻りの村々を駆けだし
いたすらはかりしていま
す。



さがしてね

ごんおまえだっ
たのか。いつも、くり
をくれたのは、



「ごんお前だったのか……。いつもくりをくれたのよ」
と言うのが一番しつうに死なりました。



本が好きな人はぜひ読んで
ください。



『ごんぎつね』

この話の主人公はいたずら好きのごんぎつ
ねです。
ごんが兵十という人にいたずらをして、兵十が
あるいたずら悲しい思いをします。
ごんは、思返し(でかい)のために山でくりや、
松や竹を育てています……。

ドキドキする物語なのでぜひ読んでください。

ごんぎつね

ごんは、兵十に何をして
兵十は、ごんに何をしてはうのか

新美南吉のけさく

これはずっと昔のお話です。

一人ぼっちのごん

おっかあが死んでしまった兵十

二人はどうなる。

わたしは、ごんぎつねを読んで
感動してしまいました。

一度読んでみてね

わたしが一番好きな
ところは、火なわ(くわ)から
まき(き)け(け)なり(なり)が(が)つ(つ)る(る)か(か)ら(ら)出(で)て(て)
い(い)う(う)こ(こ)ろ(ろ)で(で)す(す)。